

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会		会議場所 全員協議会室 担当職員 小野
日 時	令和2年11月11日(水曜日)		開 議 午前 10 時 00 分 閉 議 午前 11 時 30 分
出席委員	◎並河 ○大塚 長澤 富谷 平本 三宅 小松 西口		
理事者 出席者	【環境市民部】 由良部長 [環境政策課] 山内課長、綾野主幹 【健康福祉部】 河原部長 [障がい福祉課] 木村課長、鎌江障がい総務係長 【こども未来部】 高橋部長 [子育て支援課] 森岡課長、酒井こども政策係長		
事務局	鈴木議事調査係長、小野主任		
傍聴者	市民 0名	報道関係者 1名	議員1名(奥野副議長)

## 会 議 の 概 要

1 開 議 10:00

### 2 行政報告

[理事者入室] こども未来部

(1) ガレリアかめおか子どものあそび場整備事業（エイジレスセンター内）について  
10:03

<こども未来部長>

(あいさつ)

<子育て支援課長>

(資料に基づき説明)

[質疑]

<小松委員>

入場人数は何を想定しているのか。

<子育て支援課長>

1人9平方メートルで積算している。エイジレスセンターの敷地面積が約600平方メートルであるため、約60組を想定している。

<平本委員>

スタッフの人数は。

<子育て支援課長>

4人から5人で対応する予定である。

<平本委員>

検温の作業も同じスタッフが行うのか。

- <子育て支援課長>  
そのように考えている。
- <平本委員>  
面積に対してスタッフの人数が少ないと思うがどうか。
- <子育て支援課長>  
利用人数を確認する中で、適切な人数を配置したいと考えている。
- <富谷委員>  
未就学児が対象であるが、小学生の兄弟も入ることはできるか。
- <子育て支援課長>  
兄弟が小学校低学年であれば、入場は可能である。ただし、子どもだけで入場することはできない。
- <西口委員>  
障がいがある子どもの対応はどのように考えているか。
- <子育て支援課長>  
子育て支援員は、障がいがある子どもへのアプローチやその子どもにあった遊び方について研修を受けている。また、子どもの発達を促す知育遊具を導入する予定である。
- <三宅委員>  
営業時間は。
- <子育て支援課長>  
ギャラリーかめおかの開館時間から午後4時までである。
- <長澤委員>  
子育て支援員は、資格を必要としているか。
- <子育て支援課長>  
資格を持っていると聞いている。子育て支援員の採用は、社会福祉協議会で行われているが、今後は、採用時に資格を持っていなくても、採用後に人材育成されてもよいと思っている。
- <長澤委員>  
交流を促すようなイベントなどを考えているか。
- <子育て支援課長>  
施設を有効活用したイベントなども考えたいと思っている。
- <大塚副委員長>  
子育て支援員の資格は、研修の受講と聞いているが、その内容は。
- <子育て支援課長>  
京都府が毎年開催している無料の研修である。数日間のカリキュラムを経て認定されると聞いている。
- <大塚副委員長>  
子育ての相談は専門的なものもあると思うが、臨床心理士などの配置は考えているか。
- <子育て支援課長>  
子育て支援員は、子育てまでとなっているが、臨床心理士はB c o m e +に配置されており、内容によっては連携するような体制を考えている。
- <平本委員>  
よい事業であるため、周知の方法を工夫してはどうか。
- <子育て支援課長>

若い方に伝わるよう手法を検討する。

<小松委員>

子どものあそびばとエイジレスセンターにあったかめおかっこひろばとの違いは。

<子育て支援課長>

子どものあそびばは、かめおかっこひろばの規模を大きくしたイメージである。

<並河委員長>

財源は、ふるさと納税のみということによいか。

<子育て支援課長>

そのとおり、一般財源の持ち出しはない。

[理事者退室] こども未来部

[理事者入室] 環境市民部

10:23

## (2) 環境政策情報発信・交流拠点施設の整備（案）について

<環境市民部長>

(あいさつ)

<環境政策課長>

(資料に基づき説明)

[質疑]

<長澤委員>

この構想は、これまでからあったものか。

<環境政策課長>

こういった施設を整備したいという思いはあったが、具体的な計画はなかった。今回、偶然に目的とタイミングが一致したことから、今後は、地域総合戦略における環境の事業として取り組んでいきたいと考えている。

<平本委員>

建物の築年数は。

<環境政策課長>

建物は、昭和48年に建築され、築年数は約47年である。補正予算に計上する額は350万円から400万円で、拠点整備としてクラウドファンディングで集めた2,288万8000円を充当する。

<平本委員>

交流拠点として、多くの人に立ち寄っていただくということをコンセプトとして、明確なビジョンをもって進めていただきたい。よいロケーションなので、うまく活用していただきたい。

<環境政策課長>

議員提案のとおり、できるだけ多くの方に立ち寄っていただけるように進めていきたい。

<長澤委員>

補正予算に計上されるのは土地の購入費用か。

<環境政策課長>

土地と建物を購入するが、建物は価値がないので、実質は土地の購入費用である。

<長澤委員>

建物の大規模改修か建て替えの費用は、令和3年度以降の当初予算で提案されるということか。規模や期間の見通しは。

<環境政策課長>

設計に関しては、令和3年度の当初予算で提案できるよう準備をしたいと考えており、整備については、令和4年度以降になると思われる。この事業を地域総合戦略に加えながら地域創生の財源確保などと合わせて取り組んでいく。

<長澤委員>

主旨は前向きであるが、創業支援など経済的な視点から専門的な機関との連携は考えているか。

<環境政策課長>

経済の活性化、まちの賑わいづくりを行うことによって雇用を生む可能性もある。産業観光部や亀岡商工会議所と連携しながらサポート体制をつくっていくことも考えていきたい。

<小松委員>

立地条件がよいので、環境先進都市として大きな宣伝になる。この施設の機能として、子どもに対する環境学習の機会を設けてはどうか。

<環境政策課長>

次世代への環境教育は重要であると考えており、この拠点施設を中心に環境学習などに取り組んでいきたいと考えている。

[理事者退室] 環境市民部

[理事者入室] 健康福祉部

10:53

### (3) 盲導犬が育つまち応援交付金について

<健康福祉部長>

(あいさつ)

<障がい福祉課長>

(資料に基づき説明)

[質疑]

<小松委員>

この事業に関しては、市が自発的に始めたのか、協会から要望があったのか。

<障がい福祉課長>

協会から要望があり、ふるさと納税で寄附を募ることを打診したところ了承された。また、ホームページへの掲載やリーフレットの配布など側面的なフォローを行う。

<長澤委員>

ふるさと納税に対して返礼品の贈呈を行わない理由は。

<障がい福祉課長>

今回のふるさと納税は、同じ制度を運用されている自治会などの例にならった形とした。

<三宅委員>

クイールの活用などを考えてはどうか。

<障がい福祉課長>

20年近く経過しており、イメージが薄れているのと著作権の関係があるが、協会と連携する中でよい手法を考えたい。

<平本委員>

ふるさと納税ということは、市外の方を対象としているのか。

<障がい福祉課長>

この交付金では、市内の方を対象としている。

<平本委員>

インターネットでの寄附を行うのか。

<障がい福祉課長>

これに関してはない。

<平本委員>

寄附が集まらなると事業ができないのであれば、何か有効な方法を考える必要があるのではないか。

<障がい福祉課長>

裾を広げて進めていきたいと考えている。

[理事者退室] 健康福祉部

～11:15

### 3 その他

<長澤委員>

レジ袋の提供禁止に関する条例の施行に向け、現時点での進捗状況や課題について確認したい。

<平本委員>

執行部に対し、事前に質問事項を通知していないため、論点を明確にしておいた方がよいと思うがどうか。

<長澤委員>

①紙袋の準備状況、②マイバッグ持参率向上の現状、③経済状況と条例施行期日について執行部の考えを聞きたい。

[理事者入室] 環境市民部

<環境政策課長>

①紙袋の共同購入の10月末現在の実績は、申込み86件、11万4,300枚である。オリジナルで作成される紙袋は、年度内にまとめて補助金申請されるため、現時点で補助金申請件数は0件である。②現在、商業施設で調査を行っており、見込みではマイバッグ持参率が90%を超えている。詳細な実績については、調査の集計が終わり次第報告する。③亀岡市に新型コロナウイルス感染拡大の大きな波はきていないが、マイバッグの持参率が向上することによって、経済面においてもメリットがあるので、環境と経済の両輪で進めていきたい。

<並河委員長>

次回の委員会は12月14日（月）午前10時から議案審査を行う。

散会 ～ 11 : 30